〒100-8140東京都千代田区大手町1-7-2
TEL03-3231-7111（大代表）©産業経済新聞社2016
サンケイスポーツ
平成28年（2016）1/1 金曜日 友引
昭和38年3月16日 第3種郵便物認可
日刊 第18863号
7版
提携 道新スポーツ

イカす伝統釣法でおめでタイ!!

マダイ シャクリ釣り

リール使わず手だけで!! シンプルでも奥深い シャクリが命

サンスポ釣り面愛読者の皆さん、明けましておめでとうございます。今年も1月29日から3日間、横浜市の「パシフィコ横浜」で国際フィッシングショーが開催される。日々進化を遂げるリール、竿、仕掛けなどが一堂に展示され、訪れるファンの目を奪う。一方でそんな世界とはほとんど無縁。かたくなに伝統を受け継ぐ釣りが存在する。その代表的なものが東京湾に展開するテンヤのスミイカ釣りと、シャクリのマダイ釣りだろう。期せずして2つともシャクリが命の釣り。釣り人から〝マニアック〟と評され、限りなく奥は深い。道具の進歩にとらわれることなく、自らのウデを上達させて勝負する釣りなのだ。伝統釣法。それは自分磨きの釣りでもある。

シャコ縛り付け

不思議な釣りだ。できるのはシャクることだけ。底に置いたテンヤをひたすらシャクる。かつて〝千回シャクリ〟ということばがあった。千回シャクれば、1尾にたどりつくという。それは、シャクるしか手段がないことを如実に物語る。

「きました！」。東京湾・竹岡沖の水深35㍍前後。サンスポ釣り面の木曜日に「HIT&ヒット」（隔週）を掲載して

仕留めたりビッグマダイ！　伝統釣法の技が冴えた＝東京湾・大貫沖

100年以上前から

リールを使わない釣りの代表だ。手バネ竿に中オモリ、豆テンヤに結ばれた短いハリスの先にハリ。生きたサルエビを刺して、船長の指示ダナをひたすらシャクる。アタリが来たら合わせ、自らの手で道糸のナイロンラージを手繰り上げる。千葉県富津市の竹岡港に100年以上前から伝わり、紀州（和歌山県）の漁師が伝えたという説が有力だ。外房・大原のビシマ釣りと同じルーツといわれる。

日曜日の竹岡港『豊国丸』。日曜、祝日限定の乗合船に乗った。川島誠一船長は右手に2本の竿を持ち、巧みに操る。そして「シャクリ幅はもっと大きく！」「スピードも大事ですよ！」。的確なアドバイスを繰り出す。その間にも次々とマダイを掛けていく。

開始から1時間。ぎこちない動きでシャクリ上げた瞬間、グッと重みが。素早く合わせを入れて4手、5手と、伸びるラージ糸を大きく手繰り上げる。ズッシリとした重みが伝わる。「掛けた！」。力強く引き込んだり、走ったり。「無理しないで、指で糸を滑らせながらやって！」と船長。1・7㌔が浮いた。右舷側では迫力満点の5・5㌔が上がった。

歴史ある技が新鮮に映る!! 投入から手繰り上げまですべて

直後から大、中、小の本命が次々と取り込まれる。東京湾のド真ん中の大貫沖や鴨居沖でのすごい展開に、ただただ驚く。この日は0・4―6・5㌔が3―18尾。船中トータル79尾。リール釣りに慣れた身には、投入から手繰り上げまで、自らの手でだけで行う伝統釣法のすべてが、この上なく新鮮に映った。

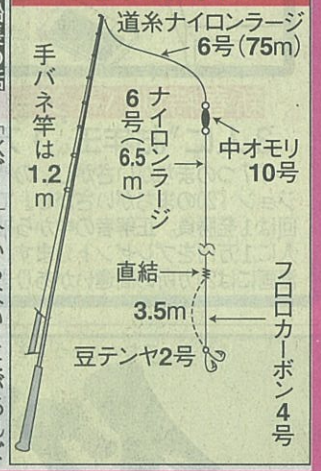
〝シャクリマダイ〟は伝統の技を今に残しながら、脈々と歴史を刻み続けている。

腕をいっぱいに伸ばしての合わせ。独特のスタイルだ

★船長の話

「秋ダイは以前は10月が基準だったが、近年は潮温低下の遅れから12月スタートになっています。大型が入り込んでくるのも最近の特徴です。数、型ともに1月いっぱいは楽しめそうですね。釣り方は朝、宿で詳しく説明します。分からないことがあれば気軽に聞いてください」

当日の仕掛け



◎ガイド◎

〈船宿〉サンスポ推薦＝千葉県富津市・竹岡港『豊国丸』☎0439・67・8203〈交通〉JR内房線・竹岡駅下車。マイカーは館山道・竹岡ICから直進で約1㌔〈乗合料金〉乗合は日曜と祝日のみに出船。貸し竿、餌、氷付き1万1000円。出船時間などの詳細は予約時に確認。毎月第4土曜日が定休。※月～土曜は仕立船のみの営業。周年出船している。

★取材　田中博典、松原輝明、APC・森川共也（取材日＝2015年12月13日、15日、23日）★取材協力　▼横浜・磯子『根岸丸』▼富津・竹岡港『豊国丸』▼勝浦・川津港『不動丸』▼静岡市・清水港『ふじや釣舟店』